

科目名	現代政治学特講	担当者	イデ 井手 ヤスヒト 康仁	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座はそもそも政治学の基本的テーマである民主主義とは何かという知識を修得することにより、以下の能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>コロナは言うに及ばず、格差や貧困、テロなど我々の生活を脅かす問題に対しての情報を集め、分析ができる。</p> <p>既存の政治がそれらに答えることが可能なのか、あるいは限界があるのか、自ら考えることができる。</p> <p>現代の民主主義について、より深い見地から理解することが出来るようになることで、有権者としての自らの行動に責任を持ち、政治についてより深く理解することが出来るようになる。</p> <p>現代政治の病巣でもあるポピュリズムや排外主義的な主張に対してどのような対処が可能なのか、より深い理解に到達することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>世界の現状を理解して説明し、有益な情報を選別するとともに、多角的に事象を分析し、独自の視点から解説できる力を身に付ける。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>① 学修者が世界各国の民主主義制度に関する情報を得た上で、各国の民主主義の特徴を比較して理解する。(知識)</p> <p>② 具体的に各国の民主主義制度に関する情報を得た上で、各国の民主主義の特徴を比較して理解する。(技能)</p> <p>③ 政治学的な理論(理想)と具体的な各国の民主主義制度(現実)の間には差異があり、そのことを理解しつつ各国の特徴にあわせた考え方を応用的に適用することで、例えば様々な選挙制度の比較や統治組織の比較など、テーマに応じて使いこなせるような思考・行動がとれる。(態度)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>Manaba folio 並びにメールのやり取りによるインタラクティブな添削指導を実施する。また、科目の性質上、受講生の考え方を最大限に尊重してそれを発展させられるように、科目担当者の意見を押し付けるようなやり方の指導は行わない。</p> <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>まず教材を読み込むことが第一である。教科書そのものは1日あれば十分読破可能なものを選んで、真に内容を理解するためには、具体的な事例の考察を自らやってみることが大切である。そのためにも、図書館を活用して教科書に挙げられている参考文献を調査するところまで進んで欲しい。そのためには、教科書読破にかかった時間の4~5倍の時間が必要であることを肝に命じて欲しい。</p>		
スケジュール	<p>前期：基本教材1のレポート課題1の最終稿は7月末までに提出。レポート課題2の最終稿は9月中旬までに提出。最終期限は学事暦に従う。</p> <p>後期：基本教材1のレポート課題の最終稿は11月末までに提出。レポート課題2の最終稿は1月中旬までに提出。最終期限は学事暦に従う。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70 %	教材の内容を十分に理解し、かつ自分の意見や主張を反映させたレポートになっているかどうか。
	観察記録	30 %	意見交換などのプロセスを含めて、その取り組みの姿勢などを平常評価として勘案する。
履修者への要望	<p>各教材、参考図書の意味内容の把握だけに終わることなく、こんにちの政治状況全般に関心を持ち、問題点を把握し、改善策を考えるなど、自らの意見が持てるように努力をすること。そのためにも、日頃から各種のニュースに関心を持ってほしい。他方で、ニュースで取り上げられた出来事だけが全てではないということにも注意して欲しい。例えば、最近の日本では高齢ドライバーの事故のニュースが連日のように報道されていて、ともすれば若者に比べて高齢者は非常に事故を起こしやすいので運転免許を取り上げなければといった議論に行き着きやすいが、実際には、10代、20代のドライバーによる事故発生率の方がはるかに高いのが現実である。マスコミが選んだ報道した出来事がニュースとなり、報道されなかったことに関しては、我々が知らないだけである。報道のみに依拠して議論することは危険であり、何事においても議論をする際には、自分の力で正しい資料を入手した上で議論をはじめると心に掛けて欲しい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 森政稔 教材名： 『迷走する民主主義』（筑摩書房，2016年）ISBN:978-4-480-06881-1 1,000円+税
	主に最近の日本政治を題材として、民主主義の意義と限界を思想的に問い直して、現在の閉塞状況を打破するためにはどうすればよいかについて考える。
参考図書	荻部直・鶴の重規・中本義彦編『政治学をつかむ』（有斐閣，2011年） ISBN:978-4-641-17715-4 2,200円+税
履修上のポイント	世界が目まぐるしく変動する中で、現代の民主主義が直面している困難について考えるとともに、民主主義をどのように変革していくべきかを考える。民主主義の起源は紀元前に遡るが、近・現代の民主主義は、時代に合わせて何度もモデルチェンジされながら、それぞれの時代に適応させて生き続けてきた。民主主義を我々の生活に活かすためにはどうすれば良いか、自分自身のこととして考えてみよう。
レポート課題 1	現代の民主主義のメリットとデメリットとはどういった点だろうか。独裁体制のメリットとデメリットと比較しながら論じなさい。 留意点： 教材を熟読した上で、具体的な例を挙げて論じて欲しい。
レポート課題 2	弱者に厳しく彼らの利益にはなりそうにない新自由主義的な政府が、なぜ弱者によって支持される傾向が世界各地で見られるのか考察しなさい。 留意点： 教材を熟読した上で、具体的な例を挙げて論じて欲しい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 中谷義和・川村仁子・高橋進・松下冽編 教材名： 『ポピュリズムのグローバル化を問う 揺らぐ民主主義のゆくえ』（法律文化社，2017年）ISBN:978-4-589-03839-5 4,800円+税
	最初にポピュリズムとはどのような性格を持つものであるかについて検討した上で、各国のポピュリズムについて、それぞれの国の歴史的・文化的背景から分析するものである。
参考図書	W. リップマン著、掛川トミ子訳『世論(上・下)』（岩波書店，1987） ISBN:978-4-589-03839-5 4,800円+税
履修上のポイント	21世紀になってから、ポピュリズム、ポピュリストという言葉がメディアに登場するようになった。そしてトランプ・アメリカ大統領登場以降、ポピュリズムという言葉は現代政治を説明するために不可欠な言葉となった感がある。ポピュリストと呼ばれるこんにちの政治家達は、どのようにして世論を動かし、味方に付けているのか考えてみよう。
レポート課題 1	世論はどのように形成されるのか。世論はどのように操作される可能性があるのか。例えば日本の原発問題や、アメリカ大統領選挙後の一連のトランプの行動など、具体的な事例を挙げて論じなさい。 留意点： 教材を熟読した上で、具体的な例を挙げて論じて欲しい。
レポート課題 2	あなたがポピュリストであると考える現代の政治家1人を挙げて、どのような点においてそう考えられるか、具体的な政策や言動について検証しながら論じなさい。 留意点： 教材を熟読した上で、具体的な例を挙げて論じて欲しい。

基本教材 1

第 1 回	「学ぶべき課題」についての全体像を理解し，教材に基づく学修①を行う
第 2 回	「学修の進め方」について理解を深め，教材に基づく学修②を行う
第 3 回	教材に基づく学修③(そもそも民主主義とは何か)
第 4 回	教材に基づく学修④(民主主義の歴史と成り立ち)
第 5 回	教材に基づく学修⑤(日本の民主主義度は他の民主主義国と比べてどの程度か)
第 6 回	教材に基づく学修⑥(理想の民主主義の条件について考える)
第 7 回	教材に基づく学修⑦(最もあなたの理想に近い民主主義国はどこか考える)
第 8 回	教材に基づく学修⑧(失敗した民主主義について考える)
第 9 回	教材に基づく学修⑨(民主主義の限界について考える)
第 10 回	レポート課題 1 に取りかかる
第 11 回	必要に応じてレポート課題に関して教員と意見交換する
第 12 回	レポート課題 1 を完成させる
第 13 回	レポート課題 2 に取りかかる
第 14 回	必要に応じてレポート課題に関して教員と意見交換する
第 15 回	レポート課題 2 を完成させる

基本教材 2

第 1 回	「学ぶべき課題」についての全体像を理解し，教材に基づく学修①を行う
第 2 回	「学修の進め方」について理解を深め，教材に基づく学修②を行う
第 3 回	教材に基づく学修③(そもそもポピュリズムとは何か)
第 4 回	教材に基づく学修④(ポピュリズムの歴史)
第 5 回	教材に基づく学修⑤(ポピュリズムの危険性)
第 6 回	教材に基づく学修⑥(世界のポピュリズム)
第 7 回	教材に基づく学修⑦(日本のポピュリズム)
第 8 回	教材に基づく学修⑧(ポピュリズムとナショナリズム)
第 9 回	教材に基づく学修⑨(ポピュリズムと世論)
第 10 回	レポート課題 1 に取りかかる
第 11 回	必要に応じてレポート課題に関して教員と意見交換する
第 12 回	レポート課題 1 を完成させる
第 13 回	レポート課題 2 に取りかかる
第 14 回	必要に応じてレポート課題に関して教員と意見交換する
第 15 回	レポート課題 2 を完成させる